

正しく飼って

犬も
飼い主も
周りの人も
みんなニコニコ



HELLO,
NEW
CITY.
新しいまちの暮らし
スーパーマーケット
うつのみや始動

☎ 1005582

犬の飼い主になるということは、「命を預かる責任」
「飼い主として社会に対する責任」を持つことです。
犬の正しい飼い方について、考えてみませんか。
☎ 生活衛生課 ☎ (626) 1108

犬を飼う時の3つの心得

1. 終生飼養の義務があります

飼い犬がその命を終えるまで、適切に飼い続ける義務があります。

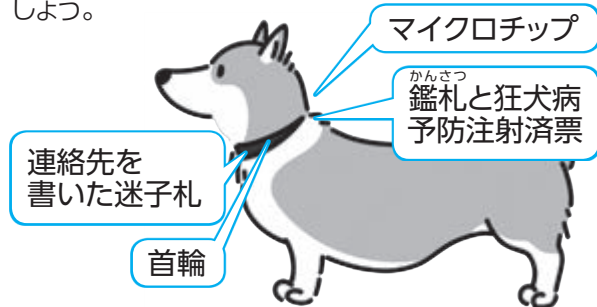
2. 周囲に迷惑を掛けないよう、法律やマナーを守らなければいけません

- ▼ 放し飼いや散歩で放すことは禁止されています。
- ▼ 周辺地域への配慮はしていますか。鳴き声やフンの放置などで迷惑を掛けてはいけません。フンは飼い主が責任を持って、持ち帰りましょう。
- ▼ 「狂犬病(※)予防法」により、生後90日を越えた犬に対して、年1回のワクチン接種をすることが法律で義務付けられています。

※ すべての哺乳類に感染し、さまざま神経症状を引き起こします。人も犬も発症した場合の死亡率はほぼ100%です。世界で年間4～5万人が狂犬病で命を落としており、その多くが犬に噛まれることにより感染しています。

3. 所有者明示を必ず行いましょう

首輪に連絡先を書いた迷子札などをつけましょう。



ペットも大切な家族



犬を正しく飼う上で、☎ 1030871

ペットの「5つの自由」の考え方が大切です



ペットは、自らの意思で生理的、環境的、行動的、心理的、社会的な基本的ニーズを満たすことはできません。そのため、動物福祉の観点から、飼い主は、基本的ニーズを満たし、ペットができる限り快適で

苦痛を受けずに生活できるようにする義務と責任があります。

次の、ペットの「5つの自由」の考え方を参考に、取り組んでください。

1. 飢え・渇きからの自由

適切な食事、いつでも飲める新鮮な水を用意しましょう。

2. 不快からの自由

清潔で安全な場所で快適に過ごせるようにしましょう。

3. 痛み・負傷・病気からの自由

健康に管理し、病気などの場合は適切な治療を受けさせましょう。

4. 恐怖・抑圧からの自由

苦痛や不安のないようにしましょう。

5. 本来の行動がとれる自由

個性・本能に合った行動がとれるように飼育環境を工夫しましょう。